

# 特集

平成25年度事務事業評価にみる

## リーディングプロジェクトの 進行状況について



住み続けたいまち、  
住んでみたいまちで  
あるために…

石岡市長  
久保田健一郎

石岡市は、昨年「かがやきビジョン（将来構想）」という計画を策定しました。停滞する社会経済情勢に加え、東日本大震災という未曾有の災害から真の「復興」を果たすためには、長期的なまちづくりの方向性を示す必要があると考えたからです。

そこで「かがやきビジョン」には、10年後に目指すべきまちの将来像を定めました。それが、「誰もがいきいきと暮らし輝くまちいしおか」です。

この数年間、市の人口は多くの市町村と同様に減少傾向にあり、特に働く世代の皆さんの減少が目立っています。そのような中、市内そして市外の皆さんにとって、将来にわたって「住み続けたいまち」「住んでみたいまち」であり続けるために、石岡市はどうしたらいいのか。私たちはそれを、市の魅力向上させること、そして、それ

らの情報を積極的に発信し、皆さんにお伝えしていくことで実現したいと考えています。

### 市の魅力向上と 積極的な情報発信

市の魅力向上については、これまでにも多くの取り組みを行い、実績をあげてきました。働く場を確保するための企業誘致の取り組みでは、8社が新規立地や事業所などの拡張を行い、約180人の雇用が見込まれる状況です。また、放課後児童対策では、3年生までだった対象者を6年生まで拡大することで、保護者の皆さんが働きやすい環境づくりを図ることができたほか「木の住まい助成事業」では、木造住宅への助成によって林業を応援するとともに、働く世代の市内定住に効果をあげてきました。

今年7月に第3弾を発表した「いしおかサンド」や農力アップ推進事業では、市の農産ブランド化に大きく寄与し、また、

一定の経済効果も生んでいると考えております。

昨年11月の朝日トンネル開通に関しても、整備効果を高めるため、やさと温泉ゆりの郷のリニューアル、フラワーパークへのトイレ、レストランの設置などをを行い、来場者増につなげることができました。もちろん、今年度中にいよいよ着工するJR石岡駅や東西自由通路もこれまでの積み重ねの成果の現れですし、商店街をはじめ関係団体の皆さんと進めてきた中心市街地活性化も、地元の皆さんの協力でまちの賑わいづくりが実現しつつあります。現在も、魅力を高めるため、市を挙げてさまざまな施策に取り組みんでいます。

この特集号では、平成25年度事務事業評価にみる今年度のリーディングプロジェクト（各施策を先導する事業のまとめ）で、通常の事務事業や施策の垣根を越えたプロジェクト展開で、より効果的な進行を図るの進行状況を紹介しながら、市の取り組みをお伝えします。

# 9つのプロジェクトの 進行状況をお知らせします

平成25年度の「リーディングプロジェクト」は、4つのテーマに沿った9つのプロジェクトで構成されており、石岡市が目指す将来像「誰もがいきいきと暮らし輝くまちいしおか」の達成に向け、各プロジェクト

トに基づく24の実施事業を進めています。年度の半分を経過した現在、今年度のリーディングプロジェクトがどのように進んでいるのか、その様子をお知らせします。

【文責：秘書広聴課】

## 誰もがいきいきと暮らし輝くまちいしおか



### 子育て応援プロジェクト

#### ◆医療福祉費単独事業

市では、「マル福」とも呼ばれる医療福祉費支給制度(所得制限あり)によって、小学3年生までの入院・外来・調剤等に係る保険診療分の医療費に、助成を行っています。

そのような中、さらに子育て世代の皆さんを応援するため、入院については中学3年生まで、外来・調剤等についても第3子以降の小学6年生までの児童を対象に、市独自に対象年齢を拡大しています(所得制限あり)。



なお、来年4月からは、第3子以降の児童に限らずすべての小学6年生まで、入院を含め外来・調剤等に対しても助成を開始するほか、妊産婦や子どもたちの医療費助成対象者の所得による支給制限を廃止することが決まっています。

【関係課：保険年金課】

#### ◆予防接種事業

子どもたちを健やかに育てる上で大切な予防接種について、市では、できるだけ多くの子どもたちの接種を呼び掛けています。予防接種法で定められているジフテリア・破傷風・百日咳やポリオ、麻疹・風疹の接種の費用は、すべて市が負担しています。その他、



市は独自で、就学前に水痘、おたふくかぜの予防接種をした際に2500円、生後6か月までにロタウイルスの予防接種をした際に1回あたり5000円を2回助成しています。今年の4月から7月までに、水痘、おたふくかぜは396人、ロタウイルスは287人の子どもたちが接種を受けました。

【関係課：健康増進課】

#### ◆放課後児童対策事業

国の基準では、放課後の児童クラブへの受け入れは小学3年生までとしています。

市では、これを独自に小学6年生まで拡大し、子育てと働く

ことの両立を応援しています。

今年6月、小幡小学校、吉生小学校に児童クラブが開設されたことで、現在、市内すべての小学校で小学6年生までの受け入れが可能になっており、子育て中の保護者の皆さんから好評をいただいています。

【関係課：生涯学習課】



すべての小学校で受け入れ可能になった放課後児童クラブ

本格的に進めています。パソコン教室についてはすでに全校への整備を終了し、現在は図書室への導入を行っています。

中学校図書室は、昨年度までに全校への導入が終了。小学校図書室は、今年度9校への整備を行い、全19校中5校を残すのみとなっています。この5校については、校舎の耐震補強工事とのタイミングを見ながら、順次整備する予定です。

【関係課：教育総務課】

#### ▼語学指導事業

小中学校での英語教育充実に対しては、保護者の皆さんからの要望も高くなっています。そのような中、市では英語指導助手(AET)の活用を通じて「話すこと」「聞くこと」の学習充実、そして英語力の向上と国際理解教育の推進を図っています。

今年度はAETを2人増員して10人態勢とすることで、小学5・6年生のすべてと中学校の半分以上の英語授業でAETの活用を実現しました。

【関係課：教育委員会指導室】



英語教育を充実させるため、英語指導助手を増員

#### ▼安全・安心な通学支援

三つの中学校を統合してスタートした八郷中学校。通学に関しては、バス定期代への補助を行っているほか、生徒の安全と安心を確保するため、登下校において危険と思われる場所5か所に1人ずつ、人員を配置しています。

また、街路

灯も今年度中に約50か所へ新設する予定です。

【関係課：教育総務課/生活環境課】

### 企業誘致プロジェクト

#### ◆充実した優遇制度と企業活動への支援

都心から70km圏に位置する石岡市は、高速道路によって茨城空港、茨城港と結ばれるなど陸海空のインフラが充実しています。市は、この立地に加え、進出企業に充実した優遇措置を講ずることによって、企業誘致を図っています。

さらに、増やした従業員1人

につき年間10万円(最大3年間)の助成を行っているほか、県税(法人事業税・不動産取得税)の課税免除や企業立地促進法に基づく支援など、優遇制度のメニューは豊富です。

また、進出を検討している企業をサポートするため、企業誘

致推進課を設け、新規立地や増設に関する情報提供、各種相談などを、ワンストップサービス体制で行っています。

これらの甲斐あって、22年度以降では、新事業所を建設が3社(㈱トーシンウイング・横浜ゴムM.B.ジャパン㈱・日南金属工業㈱)、拡張移転による建設が1社(㈱丸高商会)、新工場等増設4社(秋山精鋼㈱・関東共栄㈱・㈱ツムラ・アイビィシーアクセス㈱)が決定し、うち5社がすでに操業を開始しています。

【関係課：企業誘致推進課】



企業進出が進む柏原工業団地



### 教育環境充実プロジェクト

#### ▼小中学校空調整備事業

市は、昨年度から市内小中学校特別教室への空調整備導入を



●就職支援事業



今年5月に行った就職面接会の様子

用が実現しました。今年度もすでに5月に面接会を開催するなど、市としては、引き続き雇用の機会拡大に努めています。

【関係課：経済部石岡事務所】

●働く世代の居住支援

人口減少社会に入った今、定住人口の確保は市にとって大きな課題です。そのような中、市では、市民や、市外から転入する中学3年生以下の子どもを持つ世帯が木造住宅を建築する場合、1戸あたり50万円（上限額）の助成を行う「木の住まい助成事業」を実施しています。



また今年度からは、市外から転入する20歳以上45歳以下の方が住宅を建築する際にも、1戸当たり30万円（限度額）の助成を行う「住まいづくり推進事業」を実施し、定住人口の増加と地域経済の活性化を図っています。

【関係課：建築住宅指導課】

今年度は、恒例となっている西荻窪駅「エキナカオヤ」での活動のほか、柏市で行われた「柏まつり」でも販売促進活動を行い、石岡の農産物をPRしました。

◆新規就農者支援対策経費

今年度は、恒例となっている西荻窪駅「エキナカオヤ」での活動のほか、柏市で行われた「柏まつり」でも販売促進活動を行い、石岡の農産物をPRしました。

また、農協などと協力し、パン用小麦「ゆめかおり」と米粉などの商品開発に取り組んでいます。このJIGONNA（地粉）プロジェクトでは、製造技術の定着とあわせ、パンの普及拡大にも努めています。

今年度から新たに新規就農（林）者が空き家を賃貸し、居住環境向上のための住宅改修を実施する際、貸主・借主に対して費用を助成する制度もスタートさせています。

【関係課：農政課】



エキナカオヤで石岡の農産物をPR

中心市街地活性化プロジェクト

■石岡駅周辺整備事業

常磐線開通後、市の中心市街地は石岡駅を核に発展してきました。しかし、郊外への大型商業施設の立地や東日本大震災の影響によって、中心市街地には空き店舗などが目立っています。



新しくなるJR石岡駅のイメージ図

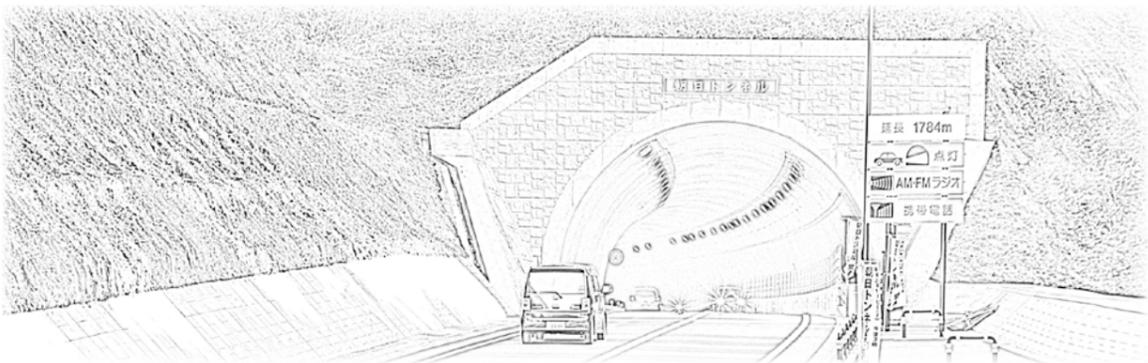
そのような中、市にとって数十年来の懸案だったJR石岡駅の橋上駅舎化が、いよいよ動き出します。駅舎や新たに設置する東西自由通路は、今年度中に着手します。また、一部着工しているBRT専用駅前広場や拡張する駅西口駅前広場は、駅舎などの工事の進行に合わせながら、整備を進めていきます。

【関係課：駅周辺整備推進室】

■中心市街地活性化事業

中心市街地は、市民にとってコミュニティの場としての役割も持っています。市では、この役割を強化し、さらに新たな魅力と活力を生み出すため、空き店舗への新規出店者を募り、支援を行っています。対象となるのは小売業や飲食業、サービス業。出店者だけでなく、空き店舗の所有者も支援の対象です。

出店者には、150万円（限度額）の店舗改装費や店舗賃借料の2分の1（限度額4万円・最大12か月）を、空き店舗所有者には、店舗貸主側の責任で実施する修繕費の6分の1（限度



額50万円）を支援しています。駅に最寄りの中心市街地で開店を考えている方々には、頼りになる支援制度です。



空き店舗対策を実施している中心市街地

【関係課：中心市街地活性化対策課】



自然の恵みを活かした農林業プロジェクト

◆農カアップ推進事業

石岡の農産物の品質は、首都圏などでも高い評価を得ています。しかし、残念ながら生産地である石岡の知名度は、決して高いとは言えません。そのような中、市は農産物等の販売PR



高齢者がいきいきプロジェクト

▼シルバーハビリ体操の普及推進

長寿社会の到来を迎え、市では、高齢者の皆さんの生きがいづくりと、皆さんが人生の中で培ってきた豊かな知識や経験を地域社会の活性化につなげるため、様々な取り組みを行っています。

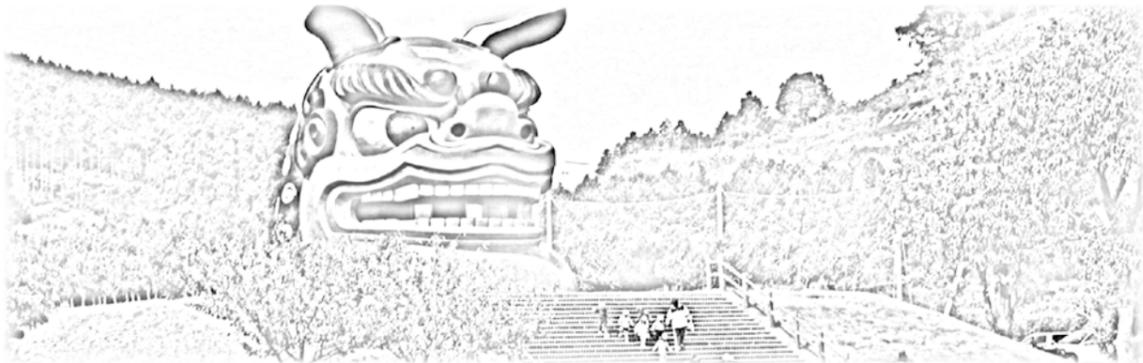
シルバーハビリ体操もその一つで、3級シルバーハビリ体操指導士の資格取得を支援するとともに、「ひまわりの館」に体操指導士を配置することによって、地域の介護予防のためシルバーハビリ体操の普及を進めています。

市の養成講座で、昨年度30人、本年度17人の3級シルバーハビリ体操指導士が誕生し、活動を開始しています。

【関係課：高齢福祉課】



シルバーハビリ体操



▼健康づくりの推進

市では、市民が気軽に運動に参加できる機会を充実させるため、来る11月9日にウォーキング大会を開催します。今年、風土記編さんの詔が出されて1300年の節目の年に当たるため、「常陸国風土記1300年記念イベント」と銘打ち、スタート・ゴール地点とも常陸風土記の丘としています。コースは、風土記の丘周辺を巡る8キロと6キロの2つのコースで、市内在住の方なら誰でも参加可能です。



安全・安心まちづくりプロジェクト

●防災無線整備事業

東日本大震災の際、市民に情報を迅速に伝えられなかったことを教訓に、市は今、災害時における広報体制の充実に取り組んでいます。その一つとして石岡地区で取り組んでいるのが、防災行政無線の整備です。これは、学校や公民館など111か所に拡声スピーカー（屋外拡声



111か所に設置する拡声スピーカー

【関係課：防災対策課】

●防災対策事業

自主防災組織の存在は、地域防災力の中核をなす組織の一つとして、大変重要です。現在市内には126の自主防災組織がありますが、今年度さらに10組織の新設を目標に掲げています。また、11月23日には、自衛隊や消防団などと協力し、石岡小学校で総合防災訓練を実施す



石小地区の自主防災訓練の様子

【関係課：防災対策課】

●安全・安心な道路の整備

東日本大震災では、道路をはじめとする市内の都市基盤が大きな打撃を受けました。その後の復旧に向けた取り組みの中で、目立った被害については整備が図られましたが、市内の生活道路などには、まだ、補修の必要がある部分は多くあります。市では、安全・安心、かつ、災害に強いまちをつくるため、国の交付金を活用して、これらの改良を重点的に行う考えです。また、市内には幅4メートル以下の狭い道路が数多くあり、



景観向上・保全プロジェクト

【関係課：道路建設課】

■景観向上の取り組み

当市は、豊かな里山や水辺環境、歴史的建造物など、多くの景観資源に恵まれています。市では、市民、行政が一体となってこれらの保全に努めるとともに、積極的に活用することでまちの魅力向上を目指しています。まず、一定条件のもと、身近にある荒廃した平地林や里山林の手入れを実施しています。主に間伐や下草刈り、植栽などを行うことにより景観の向上を図っており、昨年度は巨大獅子頭の入口付近などの整備を実施しました。今年度も、おおむね4〜5か所で実施する予定です。

また、子ども会やいきいきクラブ、消防団など17組織と協定を結び、田んぼ沿いの耕作道路に砂利を敷いたり花壇をつくることで景観向上を図っています。昨年度は、約270か所の整備を延べ4300人で実施し、今年もすでに約200か所の整備を終えています。

【関係課：農政課】

■再生可能エネルギー導入支援

地球温暖化や原子力発電所の事故などを受け、環境への社会的関心は、かつてなく高まっています。そのような中、温暖化の防止や資源の保全、停電・災害時における活用などを図ることができる太陽光発電は、大きな注目を集めています。



東小学校に設置した太陽光発電パネル

■防犯灯LED化推進事業

LED照明は、蛍光灯と比べて消費電力が抑えられ、二酸化炭素排出量の削減効果が期待されています。市では、市内に設置されている防犯灯のLED化を積極的に進めることで、環境に対する市民意識の高揚や、光熱費の削減を図っています。今年度は、すでに66地区202基（新設24基）うち支柱



LED防犯灯

【関係課：生活環境課】



観光・交流活性化プロジェクト

◆朝日トンネルを活かした観光振興

昨年11月の朝日トンネル開通によって、周辺地区の市民の利便性は大きく高まりました。それと同時に、土浦・つくば市方面から八郷地区を訪れる観光客も多くなっています。市は、トンネル開通に先立ってやささと温泉ゆりの郷を全面リニューアルしたほか、フラワーパーク駐車場へのトイレ新設などを行ってきました。また、今年5月には、フラワーパーク駐車場に自然派レストラン Yasato deトレタをオープンさ



5月31日にオープンした Yasato deトレタ

さらに、朝日トンネルからの観光客に対応するため、観光スポットへのトイレ整備を進めています。今年度は、いちごの観光果樹園が多い辻地区に設置する予定です。

【関係課：商工観光課】